

小金井市立保育園の役割（案）

・下線は、今回修正（追加）した箇所
・下線のうち太字部は、資料4 6の各委員の意見を元に修正した箇所

【市立保育園の役割の位置付け】

小金井市は、どの子ども、そしてどの親も一人にせず、安心して子育てが出来る環境の構築を目指している。近年増加する、多様なニーズを持つ子ども、家庭を含めた、インクルーシブな社会を実現するためには、保健、医療、福祉、教育、子育て等の関連分野が有機的に連携することが重要となる。その中核にはこども家庭センターが位置することになるが、保育所等はこども家庭センターと連携しながら、保育・子育て支援を通して、その一端を担う大きな役割をもつ。各公立保育所は行政機関としてその役割を主体的に担い、各地域の民間保育施設への協力・支援、連携の場づくりを行うことが求められる。

田中委員

（※ お寄せいただいたご意見（文言）をベースに、こども家庭センターと（公民）保育所、それぞれが担う役割について整理した形に修正）

【役割の整理】

	役割	実施内容	公立として期待される付加的機能
1	地域の連携、保育の質の維持・向上を促す役割 <u>（行政機関としての役割）</u> 学ぶ・つなげる 八木委員	・地域の認可・認可外の保育施設の保育の質の維持・向上のために機能する 市民ワークショップ等で同様の意見多数	・保育所保育指針・小金井市保育の質のガイドラインに準拠した保育を自ら行い、小金井市の保育の実践モデルとして存在する。 ・地域の民間保育施設と連携・交流し、学び合いの場をつくったり、蓄えられた専門性・経験値を活かした支援・指導を行う。 ・園庭・プールなどを民間保育施設に利用してもらう。 ・行政部門で巡回支援指導、 都と合同での指導検査 を実施する人材を育成する。 大前委員
2	難度の高い保育を率先して担う役割 <u>（行政機関としての役割）</u> 取り組む 八木委員	・配慮を要する子ども（障害児、医療的ケア児）の支援 ・要支援家庭・児童（ 外国籍 、生活課題をかかえる、養育困難、虐待懸念）への支援 大前委員	・こども家庭センター、療育機関（児童発達支援センター、児童発達支援事業等）、医療機関などと連携して難度の高い保育を自ら率先して行うとともに、民間保育施設と連携して、 事例の共有 や必要な支援を充足させる。 大前委員
3	公立保育園の機能を活かして在宅子育て家庭等を支援する役割 <u>（地域子育て支援拠点としての役割）</u> 手を伸ばす 八木委員	・保育の専門性をもつ子育て支援センターとして、在宅子育て家庭の支援を行う。 ・子育て支援センター（地域子育て支援拠点事業・センター型）の基本事業：親子交流、子育て相談、子育て支援関連情報の提供、子育てに関する講習の実施など。 市民ワークショップ	・地域の在宅子育て家庭への支援を、保育の専門性・経験値を活かして行う。 ・子育て相談（対面、電話、メールなど）、出前保育、母子保健事業に参加するなどのアウトリーチの活動、一時保育（こども誰でも通園制度）などの実施を通して支援ニーズを発見する。 ・必要に応じて保育の実施による支援を行ったり、こども家庭センター等他機関と連携して支援をつなぐなど、幅広く臨機応変な支援を行う。 ・高齢者との交流、小学生の居場所の提供など、多世代への支援も視野に。
4	緊急時に地域の子どもと保育を守る役割 <u>（保育施設としての役割）</u> そなえる 八木委員	・地域の保育施設にトラブル等による保育の停止などがあった場合に子どもの受け皿となる ・災害時に、生活施設として地域を支援する（避難所での出前保育、復旧が遅れている保育施設利用者のための臨時保育、民間施設への支援物資提供の拠点となるなど）	・市の責任による最終的な子どものセーフティネットとして機能する。 ・市の機関として横断的に連携しながら、非常時対応をする。

※ 上記役割を市立保育園が果たすために行政が果たすべき役割：関係機関との連携等においてイニシアチブをとる